

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293500078		
法人名	有限会社 シーシー商会		
事業所名	グループホーム 白寿		
所在地	八街市東吉田561-74		
自己評価作成日	令和2年11月11日	評価結果市町村受理日	令和3年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和2年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>手作りで料理を食べて頂き、健康で楽しく過ごせる施設です。自分で出来る事は、自分でやっていただく。人間性の尊重。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経験豊かな職員が利用者を支えている。利用者一人ひとりに尊厳を持って支援する事を理念とする事業所は農地に囲まれた環境のなかにある。ホームは、日常の散歩、草むしりなどの適度な運動、手作りの食事など、利用者が家庭的な環境の中で過ごせるように支えている。落ち着いた環境が得られたことで、入居後に健康を取り戻す利用者もいるとの事である。地域との協力関係も少しづつ作り上げており、自治会、婦人会、老人会、民生委員などと連携ができてきた。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員同じ方向に向かい、利用者さんと対応しています。	安心と尊厳のある支援を理念としている。人生の先輩に対し、決して馴れ合いになることなく、一人ひとりに目を向けながら利用者の生活を支えるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事がコロナ感染症感染防止の観点から中止になり、交流はありません。	管理者は積極的に地域と交流できるように働きかけている。今では自治会、婦人会、老人会、民生委員など多くの人たちの協力が得られるようになってきている。運営推進会議や地域行事についても相談しながら進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談受付はしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症感染防止の観点から中止となりました。	昨年の運営推進会議は地域包括支援センター、自治会長、婦人会、老人会、民生委員はじめ多くの地域の人たちと事業所の関係者の参加で会議が開催できた。ミニ研修会を取り入れるなど新たな取り組みをする予定だったが、今年度はやむなく中止している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村より連絡があった時はすぐに対応しています。	行政には日頃から運営上の相談は出来ている。今年度は行政が主催する各種会合、勉強会は中止になったが参加する用意はしていた。昨年は災害対応に必要な資材について情報があり、今年度は新型コロナウイルス対応の情報ももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の理念。笑顔のある生活を支援します。	法人グループで身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3か月毎に会議を実施している。事例研究、身体拘束0の理念などで勉強会も実施している。会議の内容は随時職員にも伝えている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でも常に相談を設け、倫理的視点からお互いに虐待防止に努めています。また、虐待は見過ごしません。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談を受けた時、又は必要性があると思われる場合は関係者と話し合いをして支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時管理者が内容、重要事項について説明し安心して利用して頂けるよう配慮しております。体験入所も行ってあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えを傾聴し御家族の御要望・御意見を伺いながら運営しています。玄関先に御意見箱を設置しています。	利用者の日々の生活に寄り添い、夜間の水分補給、休憩時にテレビを見たい、買い物や家族との連絡など様々な要望、希望に応えるように努めている。	家族の意見等をさらに吸い上げるために、利用者の様子を事業所だけで伝えたり、運営推進会議に家族が参加しやすい工夫をすることなどが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	知識や仕事、介護への意識を少しずつ深め勉強会・意見交換などして職員の質の向上に努めている。	管理者は、日頃から職員の意見を聞く機会を作っている。自主的に活動できる経験豊富な職員が多いが、話し合いを大切にしている。わずかな時間でもケアマネジャーを交え、ミニ研修や情報交換をおこなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を作り、研修など参加し向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員共に研修に参加できる体制を作り、スキルアップしながら進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が研修会へ参加時、他施設勤務者との意見交換、電話、文書などで連絡を取り合っております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の訴えを傾聴し、困っていること等、内容を受け止め、安心した生活が送れる場所であると感じていただけるよう、信頼関係構築を日々の関わりから探っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・介護に対する不安を、しっかり話し合えるよう、傾聴・話易い環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	把握しホームに馴染んでいただくこと。家族の要望も取り入れ、利用者・家族とともに、ケアプラン作成を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を引きだし、自分でできることは行って頂き、できない部分は声掛けや介助など支援を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族だけでなく、親戚や友人の面会をお願いし声掛けをし縁が途切れない様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の言いつけ、電話でのお話、間接的に支援するように努めている。	行きつけの美容院に行ったり、知人の訪問も歓迎している。また、近隣は畑が広がっていて、散歩コースとして利用しており、利用者にとって馴染みの場所となってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者お一人お一人の状況を把握し、職員が間に入ることで、コミュニケーションの仲介を支援しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要事項は報告、又ご相談には積極的に対応するようにし、連絡を取り合えるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から関わりを重視し信頼関係を築いて行くことでご本人様の悩みや不安を知り、生活上の意向や希望を把握出来るように努めています。	入居前の生活歴や暮らし方を把握することで、利用者個々の理解に努めている。また、日常の生活の中で、一人ひとりの仕草や表情から思いをくみ取るようにしており、申し送りや業務日誌に記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、生活歴や今までの暮らし方の状況等、可能な範囲で把握し、ケアに繋げる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のペースに合わせて一日を過ごして頂けるよう、努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望に添った内容、又ご家族の希望を取り入れ毎月モニタリングを行って介護計画をたてています。	担当者会議を開催のうえ、介護計画を作成している。計画作成にあたっては、利用者や家族の意向を踏まえ、月1回のモニタリングやホームの協力医の意見も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック・体調変化の確認・職員間の情報共有をしながら介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望を聞いたり、毎月の行事を工夫することに努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区会に入会しており、回覧板を通じて催しなどに参加。楽しみが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、基本的にはご家族に付き添っていただく。都合がつかない場合は、施設職員による付添いも行う。月二回訪問診療医による健康管理あり。	月2回の協力医の訪問診療で利用者の健康管理をおこなっている。専門医受診には家族に協力を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック・日々の体調変化の確認を行い、主治医へ報告。必要に応じて指示をうけ対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態に応じてご家族・医師・ソーシャルワーカーに相談・連携し、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に、利用者及び家族に意向を伺い、主治医に報告し協力を得ている。ご本人様にとって良い対応・支援を心掛けています。	入居契約時に、看取りをおこなっていないことを説明し、急変時には救急搬送することを伝えている。主治医と連携し、できる限り利用者や家族に寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の既往症を把握し医師に急変時に備えて対応の仕方を確認、職員には受診記録を通じて周知する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防避難訓練を実施、緊急時に慌てないよう、指導等を受けている。	年2回、消火、避難訓練を行実施している。繰り返しの訓練をおこない、災害時に落ち着いて対応できるようにと、消防署から助言も受けている。	夜間、自然災害、火災など、さまざまな場面を想定した訓練を繰り返し実施することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、尊厳を持って接するよう心掛けています。	入浴時や排泄介助時には尊厳を大切にしながら声かけに努めている。また、何かする時には必ず説明してからおこなうことを職員間で共有している。管理者は今後接遇研修も実施したいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かり易い説明、返事のしやすい問い掛けを心掛けている。自立した日常生活と自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、その他の要求に関して受け止め納得できる対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしさを尊重し日頃の服装にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け利用者様の能力に合った事を行って頂きます。	地元で収穫した季節の野菜を使うなど季節感のある献立を心がけている。調理は職員が交替でおこない、利用者は下膳などを手伝う際に、職員との会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の持病の状態に合わせて摂取量及び食事形態の工夫を行います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状況に応じて口腔ケアを支援し清潔保持に努める。訪問歯科診療、療養管理指導を手配している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄記録を基に排泄パターンを考え、声掛け・誘導・介助にて支援している。	排泄記録を付けており、一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛けをするなど、排泄の自立に向けて支援をしている。また、食事や運動により、自然な排泄につなげるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて定期的な排便を確認し、食事や水分量にも考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	見守りしながら、出来ない部分のみ支援するようにしている。	週2回の入浴を基本としており、利用者の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。ゆず湯や菖蒲湯など、季節感も味わってもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその日健康状態により室温の温度調整や寝具の調整を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後、手渡しでお水・お薬を渡して目の前で服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花瓶の水替えなどその方々の残存機能など活用して出来ることをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って散歩を楽しんだり買い物同行したりご家族と外出出来る様、支援している。	季節の移り変わりを感じる事が出来るように、散歩や、外出を心掛けているが、今年は外出が難しい状況となっている。ホーム敷内の畑や花壇などの整備に参加するなど、外気に当たる機会を持つようになっている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてスタッフ同行にて買い物出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人からの電話は取り次ぎ、手紙の代筆・希望があれば投函の手伝いもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、年間を通して季節感を採り入れた飾りや、催しの時の写真などを掲示し、心豊かになれるように努めています。トイレ・浴室は明記しています。	ソファの位置や採光、温度、音などにも気配りをして、居心地のよい空間づくりをしている。また、場所の混乱が起きないように、トイレや浴室は分かるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ファーや一人掛けの椅子を設置しています。くつろぎや気の合った人とお話出来る様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談して、使い慣れたタンス・気に入っている洋服・布団・枕等、ご本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	入居前に使っていた家具などを持って来てくれるなど、利用者に安心して過ごしてもらえるよう支援している。写真やポスター、飾り物を持って来る人もおり、自分らしい居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、トイレ、浴室、手すりを設置場所が分かるように名札を付け、玄関にも椅子を用意して、安全に靴の脱ぎはぎが出来るように工夫しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと